

## 第13回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和7年2月13日（木）午前9時30分～午前11時30分
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室5・6
- 3 出席者：前田委員長、林田副委員長、杉浦委員、北村委員、田代委員、渡邊委員、島田委員、安藤委員  
関係者：おだわら市民交流センターUMECO指定管理者 柏木センター長、興津副センター長、吉田氏（議題（2）②から）  
事務局：澤地課長、八田副課長、城戸主査、菊地主事補
- 4 資料：
  - ・次第
  - ・資料1-1 補助金交付団体へのアンケート
  - ・資料1-2 UMECO登録団体へのアンケート
  - ・資料2 UMECO第三者評価（令和7年度実施事業分）実施要領
  - ・資料3 おだわら市民交流センターUMECO実施事業計画（令和7年度）
  - ・資料4 令和8年度 小田原市市民活動・協働応援制度 応募の手引き（案）

### 5 会議内容

#### ■ 開会

委員長：ただいまから、第13回小田原市市民活動推進委員会を開会する。

本委員会の会議は原則公開となっているが、議題（3）市民活動・協働応援制度について、の②補助金第一次審査は、補助金に係る書類審査を実施するにあたり、市民の間に不当な影響が生じないようにし、かつ特定の者に不当な利益又は不利益を与えないようにするため、小田原市情報公開条例第24条第3項に基づき「非公開」とする。

#### ■ 議題（1）補助金交付事業等に関する調査票について

委員長：議題（1）補助金交付事業等に関する調査票について、に入る。それでは、本議題について、事務局から御説明をお願いしたい。

（事務局 資料1-1、1-2に基づいて説明）

事務局：今日は補助金の第一次審査が控えているので、御意見等あれば2月28日（金）までに、事務局に御連絡するようお願いする。

委員長：ただいまの説明で何か質問はあるか。

（意見なし）

#### ■ 議題（2）おだわら市民交流センターUMECOについて

委員長：議題（2）おだわら市民交流センターUMECOについて、①第三者評価について、事務局から御説明をお願いしたい。

（事務局 資料2に基づいて説明）

事務局：御意見等あれば2月28日（金）までに、事務局に御連絡するようお願いする。

委員長：ただいまの説明で何か質問はあるか。

（意見なし）

委員長：次に、議題（2）おだわら市民交流センターUMECOについて、②令和7年度事業計画、に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができることから、以降の議題についておだわら市民交流センターの指定管理者に御出席いただく。指定管理者から御説明をお願いしたい。

（指定管理者 資料3に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：令和7年度目標値に記載されている各「%」は、具体的に何を基準とした割合なのか教えていただきたい。

指定管理者：基本的にはアンケート調査を実施し、その中で該当の項目がどのくらいの割合であったかというもの。例えば「1 UMECO企画展」では「関心度の増大」をチェックした方が、どの程度回答の中にいたかということで、その目標値を「30%」としている。

委員：「17 情報発信」や「18 UMECO10周年事業」について、「回収した数に対し」との記載があるが、指標がアンケートのものでも他の項目にはその記載がない。何か違いはあるのか。

指定管理者：申し訳ない。同じ考え方である。

委員：回収数の80%等が目標として記載されているが、過去のアンケート結果を振り返ると、回収数が極端に少ない場合があった。そもそも回収率を上げることについてはこの目標に含まれているのか、あるいはそのような考えがあるのであれば伺いたい。

指定管理者：目標値の設定はしていないが、アンケートの回収率は大きな課題として認識している。ただ、回収率には大きな差があり、100%近く回収できる場合もあれば、10%や20%しか回収できない場合もある。例えば、企画展においては来場者に自主的に記入を依頼する形式であるため、回収率は低い。一方で、直接アンケートを渡す形式の事業では、比較的高い回収率を維持している。

委員：「9 市民活動入門講座」や「10 夏休みボランティア体験学習講座」は若者を主な対象としているように見えるが、年齢の高い団体も結構あると思う。講座の参加者と団体間の年代差が大きく、この差をどのように解消していくかが課題と考える。また、横浜市の県民サポートセンターでは、30代から60代を対象に市民活動入門やNPO入門講座を実施しており、団体設立への意欲的な動きが活発である。小田原市においてもこのような取り組みを計画しているのか。

指定管理者：若者を対象とした理由は、団体の高齢化が進む中で若者との接点を求める団体が多いことや、若い世代に将来的に市民活動へ携わってほしいという意図があるためである。ただ、シニア層を無視するのではなく、彼らを対象とした講座も検討していく考えである。

委員：そちらの方が現実的だと思う。また、団体の人材不足や高齢化によるNPO法人の解散が増えている現状を食い止めるには、ある程度の年代の人々をターゲットにすることが効果的であると考えます。

委員：目標値の設定について、例えば「4 相談業務」の解決割合では、6年度実績値が9割であった一方、7年度目標値が5割と下がっているが、目標値を上げることは検討できないだろうか。

指定管理者：高い目標値を設定するべきかもしれないが、現実的な基準にしている。低すぎるということであれば、目標値を引き上げることも可能である。

委員：実績値がかなり高いので、目標値について少し上げていただいた方がいいかなと思う。また、細かいが、「15 団体交流会」では指標のところで「他団体との繋がりができた割合」となっているのだが、実績値及び目標値が「件数」で表記されている。

指定管理者：申し訳ない。指標について「割合」から「件数」に訂正させていただく。

委員：最後に、「17 情報発信」の④「新たな情報発信メディアへの展開」と記載があるが、今どのような構想を持っているのか考えがあれば伺いたい。

指定管理者：新聞折り込みなど配布数の多いタウン紙を活用し、事業案内を行うことを検討している。

委員長：「14 UMECO祭り」で、実績値に参加者と団体数の記載があるが、目標値には団体数がない。団体数の目標は特に立てていないのか。

指定管理者：内容やスペースの制約により参加団体数が限られてしまうため、団体数の目標は特に設定していないが、例年並みの参加団体を想定している。実績には参考として数値を入れさせていただいた。

委員長：UMECO祭りについて、毎回参加している団体もあれば、初参加の団体、去年は参加していたが今年不参加である団体もあると思われる。そこで、大まかでよいが、毎年必ず出店する団体や単発で参加し1回限りで終わる団体の割合について、伺いたい。

指定管理者：継続的に参加者している団体数について具体的には把握していないが、少なくとも半数

以上は例年参加している団体である。また、新規団体にも積極的に案内を行い、UMECO祭りへの参加を呼びかけている。

委員長：11月下旬に開催されるUMECO祭りへの参加について、どのタイミングでどのような周知をしているのか。

指定管理者：周知としては、まず4月に団体登録している全ての団体へUMECO祭りの実行委員募集の案内を配布している。また、実際の参加団体募集は8月に行っている。来年度は、UMECO祭り開催日を1週間遅らせる予定である。この変更は、他のセンターとの日時重複を避けるためと、11月の3連休であるため、来客の行楽と重なることへの対応である。変更については今後、各団体へどのようにアピールしていくのか確認していきたい。

委員長：UMECO祭りの開催は12月になるのか。

指定管理者：11月の末になる。今までは20～23日前後に実施していた。

委員長：今年は平塚市の市民活動センターの祭りと重複しており、私は両方を視察した。こちらが日程をずらせば、相手側も変更する可能性があるが、重複が発生しないように双方で調整されているのか。

指定管理者：市外はわからないが、市内では、毎年同日にけやきで「いきいきフェスタ」というイベントが開催されている。こちらにも参加している団体があるため、当該イベントを避ける形で1週間ずらして日程を調整している。

委員長：もう1点。「18 UMECO10周年事業」とあるのだが、特に大きな予算をとってやるということではないのか。

指定管理者：具体的な計画は未定である。大きな予算を組むとなると、当然小田原市とも調整が必要だが、まだ相談もしていない。UMECO祭りの中で10周年記念事業を行う可能性があるが、内容や周知方法についてはこれから話し合いが必要となる。また、UMECO祭りはこれまで1日開催であったが、とりあえず会場は2日間、確保している。ただ、基本的に具体的などころについては未定である。

委員長：実際には、指定管理者を選定する際に、5年分の予算をあらかじめ出して、年度協定の段階でそれを微修正すると思う。もう来年度なので、仮に予算措置が必要だと、準備しておかないと間に合わない。準備の状況はどうなっているのか。

指定管理者：UMECOでは記載してあるように、17の事業を計画している。この事業の中の1つとして、10周年記念事業を実施するならば、その予算内で実施することは可能であると考えている。特異な形での実施は、予算的に厳しいかなと思っている。

委員長：UMECOは創立記念日といったものはあるのか。

指定管理者：11月28日である。

委員：「4相談業務」について、まだ年度途中ということもあるのかもしれないが、実績値が47件であったのに対して、目標値は100件となっている。何か具体的な方策があるのか。

指定管理者：今年度の実績については、相談件数をカウントしていないというスタッフのミスがあり、少なくなっている。相談件数は例年約100件であるために、目標値を同様に設定している。実績値が少ないのはこちらのミスであり、非常に申し訳ない。

委員：カウントしてなかったということだが、相談を受けるたびに相談シートを記入しているのか。

指定管理者：その記入を忘れていたとのこと。12月の相談件数が集計時に1件しか上がっていなかったが、実際には窓口で相談を受けていた。個人の処理ミスが原因で記入漏れが発生していたのではないかと考え、スタッフに反省を促している。

委員：この部分は、UMECOの肝の部分だと思うので。ここは気を付けていただく方向でお願いしたい。

委員：気持ちの反省はあまり意味を持たないと思う。具体的な再発防止策について何か考えはあるのか。

指定管理者：具体的な形としてはやはり教育しかないのかなと思っている。

- 委員：個人の努力に頼るだけでなく、例えばダブルチェックを行うなど、組織として業務改善を行うことが必要であると考えてる。
- 指定管理者：これまでこのような問題はなかったが、今回の事案を反省点として捉え、改善に取り組む。ダブルチェックというよりも、月ごとの記録状況を把握し、記録が少ない場合に認識を高める仕組みを構築することが求められる。
- 委員：どのように相談業務をしているのか。相談ごとに通し番号や相談番号を付けるなどの管理が必要であると思う。相談者は一度きりで終わる場合もあれば、法人設立や解散に関する相談では複数回相談することが多い。そのため、以前の相談内容や対応状況を紙に記録し、次の相談に備える体制を整えることが重要である。
- 指定管理者：それについては一応そのとおり実行している。一度で解決できなかった問題については再度相談に来られる。その際、カウントとしては2件の相談としているが、対応としては再相談として扱っている。引き継ぎは適切に行われているが、12月分については引き継ぎが不十分であったため、その点をどう改善するかが課題である。
- 委員：担当者だけが悪いという形にならないよう、全体で対応策を考えていただきたい。
- 委員長：紙ベースで記録を残すだけでなく、データとして保存する方法もある。例えば、相談者が2回目や3回目に訪れた際、前回の担当者が必ずしも対応できるわけではない。そのため、データを開いて前回の相談内容や担当者の情報、対応内容を画面上で確認できれば、次の対応がスムーズになる。このような工夫について検討されたことはあるのか。
- 指定管理者：実際にそのような方法で対応している。パソコン上にデータを作成し、デスクトップにいつでも開ける形で保存しており、相談を受けた際にはそのデータを確認している。

#### ■ 議題（3）市民活動・協働応援制度について【②非公開】

- 委員長：議題（3）市民活動・協働応援制度について、①市民×行政協働コース応募の手引き、について事務局から御説明をお願いしたい。  
（事務局 資料4に基づいて説明）
- 事務局：御意見等あれば2月28日（金）までに、事務局に御連絡するようお願いする。
- 委員長：ただいまの説明で何か質問はあるか。  
（発言なし）

#### ■ その他

- 委員長：その他について、事務局からお願いする。  
（事務局 今後の会議日程の調整）
- ※調整の結果、今後の会議日程及び場所は次のとおりとなった。
- 第14回委員会・・・3月16日（日）終日 UMECO  
第15回委員会・・・5月23日（金）午前 UMECO

#### ■ 閉会